

## 大気に放散される土壌CO<sub>2</sub>ガスフラックスモニタリングポストの開発とデータ分析

九州大学 大学院 工学研究院 教授 佐々木 久郎 (他4名)

---

地球温暖化に伴う気候変動抑制のため、世界で約100億t/年のCO<sub>2</sub>排出量削減が必要とされ、深層へのCO<sub>2</sub>地中貯留も有効な対策として実施されつつある。

その際に地表へのCO<sub>2</sub>漏洩監視は地域の安全に不可欠であるが、世界の陸域の土壌から約2200億t/年の割合でCO<sub>2</sub>が放散されているため、本研究では土壌ガスフラックスモニタリングポストの開発と主に気象条件に対するベースラインデータ分析に基づいた漏洩の判断基準を提示する。